

地蔵盆運営への関与からみた町内住民間の関係の冗長性

－レジリエントなコミュニティ形成に果たす地蔵盆の役割に関する研究 その2－

REDUNDANCY OF RELATIONSHIPS AMONG INHABITANTS OF “CHO” COMMUNITY
IN TERMS OF INVOLVEMENT TO JIZO-BON MANAGEMENT

－ A study on roles of Jizo-Bon in the resilient formation of the local community Part 2 －

前田 昌弘^{*1}, 高田 光雄^{*2}

Masahiro MAEDA and Mitsuo TAKADA

This paper analyzed how Jizo-Bon, small-scale religious festivals held widely in Kyoto-city, contributes for improving resilience of “cho”, the basic communities in the central urban area of Kyoto. We clarified that Jizo-Bon is one of important opportunities for inhabitants to be involved in “cho” except for “cho-nai-kai”, community management associations. The results show Jizo-Bon provides “cho” with “redundancy”, another key factor of resilience in addition to “diversity”. It is caused with characteristics of Jizo-Bon as shown below.

1. Loads for management are distributed to the extent that each inhabitant can bear them. 2. Meaning of Jizo-Bon can be flexibly renewed corresponding with each inhabitant's purpose or motivation for joining.

Keywords : Jizo-Bon, Community, Resilience, Diversity, Redundancy, Kyoto

地蔵盆, コミュニティ, レジリエンス, 多様性, 冗長性, 京都

1. 序論

1.1. 研究の背景と目的

自然災害、人口変動、大規模開発など、様々な外的要因に晒され不確実な変化が生起する現代の都市において、レジリエントなコミュニティ形成が一つの課題である^{注1)}。本研究は、京都の地域社会の基本単位である「町内」ごとに住民の手によって続けられてきた行事である地蔵盆^{注2)}に着目し、地蔵盆がレジリエントなコミュニティ形成に果たす役割を探るものである。前稿¹⁾では、レジリエントなコミュニティ形成の条件の一つである「多様性」(コミュニティに関わる主体の種類が多いこと)の獲得に地蔵盆が寄与し得ることを地蔵盆への参加者の分析を通じて明らかにした。

日本の他の多くの都市と同じく、京都においても地域自治を担う住民の減少が問題であり、それは町内会加入率の減少などの形で顕在化している。そのような状況を鑑みると地蔵盆において多様な住人が地域に関与していることには確かに一定の意義がある。しかし、地域自治の持続という視点からみると本来、参加者の増加だけでは不十分であり、参加と運営のバランスが不可欠である。

すなわち、多様な住人が参加しないと行事の内容が充実せず、参加のモチベーションが維持されない(協調問題)。一方で、行事に参加するだけで運営を担わない人が増えると、一部の住人に運営の負担が集中し、行事の存続が困難となる(フリーライド問題)^{注3)}。

これらの問題に対し、長期持続してきた地蔵盆には、住人の参加を促し、かつ運営の負担を分散する何らかの性質が備わっていると

推測される。そして、地蔵盆によって、町内会とは異なる形で住人が地域に関わる経路が形成されていると考えられる。その場合、町内コミュニティは、「多様性」とともにレジリエントなコミュニティ形成の条件である「冗長性」(コミュニティに関わる経路が複数存在すること)を備えていると言える。

生活様式の変化と価値観の多様化に伴い、特に若い世代の間で地蔵盆への関心が薄れているとも言われるなか、地蔵盆にはどのような意義が見出せるのか。上述した仮説のもと本稿は、個々の住人の地蔵盆運営への具体的な関与に着目し、地域自治を補完する地蔵盆の役割を探り、地蔵盆の現代的価値を見出そうとするものである。

以上を踏まえ本稿は、地蔵盆の運営への住民の関与に着目し、地蔵盆が町内住民間の関係の冗長性の獲得に寄与しているか、寄与している場合、それは地蔵盆のどのような性質によるものか、明らかにすることを目的とする。なお、地蔵盆は町内会とは起源を異にするが、現在では町内会活動の一つとして認識されている。このような地蔵盆と町内会活動の重複を前提として本稿では論を進めている。

1.2. 既往研究と本研究の位置づけ

既往研究としてまず、現代の都市運営における宗教行事や祭礼が持つ意味に関する研究がある。市民の宗教的活動グループを社会関係資本の一つとして取り上げたパットナムらによる研究²⁾や、社会関係資本としての都市祭礼を論じた山田らの研究³⁾からは、地蔵盆もまたコミュニティ形成や地域自治を効率化する際の資源となり得ることが示唆される。また、共通知識の形成という観点から儀礼の

^{*1} 京都大学大学院工学研究科 講師・博士(工学)^{*2} 京都美術工芸大学 教授・博士(工学)Lect., Graduate School of Engineering, Kyoto University, Dr.Eng.
Prof. Kyoto Arts and Crafts University, Dr.Eng.

機能を論じたチウエによる研究⁴⁾は、コミュニティ形成の前提となる住人の相互認識が儀礼を通じて形成される過程を豊富な事例とともに描いており、地蔵盆の機能を考察する上でも示唆に富んでいる。

次に、地蔵盆に関する研究には、京都、大阪、滋賀など、各地の地蔵盆の成立と展開を明らかにした研究^{5), 6), 7)}が主に歴史・民俗学の分野に蓄積されている。これらの研究は地蔵盆が地域的差異を生じながら、時代によって位置づけや中身を変化させながら持続してきたことを示している。さらに近年は、町内という従来の開催単位で完結しない形で地蔵盆も登場しており、まちづくりとの連携など、社会状況の変化に応じた地蔵盆の新たな展開も生じている。

建築学の分野においても地蔵盆は研究の対象であり、都市空間における地蔵盆の行事と空間に関する研究^{8), 9)}や地蔵の祠の配置に関する研究¹⁰⁾などがあるが、地蔵の存在形態や地蔵盆の空間性に分析の重点が置かれている。本研究は、上述した既往研究の成果にもとづきながら、地蔵盆の宗教的行事としての側面だけでなくコミュニティ形成や地域自治の側面からみた特徴を把握し、さらに、地蔵盆の運営に対する個々の住人の関与を分析する点に独自性がある。

1.3. 研究の方法

本稿の目的を達成する上で、地蔵盆への住人の関与について、なるべく多様なパターンを把握する必要がある。本稿で調査協力が得られた2つの町内(A町、B町)は、同一地域(元学区)に位置するため背景に共通点が多いが、一方で、住民の特徴は異なっており、住人の多様な関与が観察可能であると推測される。アンケート調査では、量的分析に耐え得る十分なサンプル数が得られていない。しかし、地蔵盆への住人の関与について個人単位の貴重なデータが得られており、コミュニティの内部構造(地域・地蔵盆における参加と運営への関与)について詳細な分析が可能になったという点で意義がある。

本章につづく第2章では、調査の概要、および調査対象とする2つの町内の特徴について述べる。また、アンケート調査の結果をもとに、各町内の住民の基本属性について把握する。

第3章では、地蔵盆への住民の関わり(行事への参加、運営への関与)の全体像を2つの町内の特徴・相違点に着目して把握する。また、個々の住人の地蔵盆への関わりに着目し、コミュニティにおける住民間の関係について、2つの町内を併せて分析する。具体的には、町内会の運営を何らかの理由で担っていない住人が、地蔵盆の運営の一旦を担うような関係(冗長性)があるか検証する。

第4章では、地蔵盆によって町内における関係の冗長性が獲得される要因について、前章までで明らかにした2つの町内の特徴・相違点を踏まえ、個々の住人の地蔵盆に対する認識(行事の意味づけ、参加の動機、関わるきっかけ)をもとに分析する。

第5章は結論であり、本稿の分析結果をもとに、地域自治における地蔵盆の現代的価値について考察する。

2 調査の概要

2.1 調査対象地域の概要

調査対象である2町内(A町、B町)は、前稿¹⁾で調査対象とした3つの元学区に含まれる有隣元学区に位置する。3つの元学区はいずれも京都市の中心地区である「田の字地区」もしくはその近傍に位置し、人口に占める共同住宅世帯率が高く、また、地蔵盆を開催する町内が多いという共通の特徴がある。A町、B町も地蔵盆が盛んで

あるが、一方で、以下に述べるように町内の人口構成の特徴が異なっており、地蔵盆への住人の関わりに差異がみられる。

A町(戸建て・長屋建ての住宅が中心の町内, Fig. 1)

人口は75人、45世帯(うち共同住宅が1棟・14世帯)であり、住宅は戸建て・長屋建てが中心である。2013年度の地蔵盆当日の参加者は約50人であった(参加率・約67%)。A町には居住年数が比較的長い住人が多く、住民の高齢化が進行している。一方で、町外から転入する住人も一定数存在しており、そのような住人も町内との関わりを持っている。2013年度の町内会長(地蔵盆の世話役を兼ねる)は3年前に引越して来たばかりの住人である。京都の街なかでは居住年数が長い住人が町内会長を務める町内も多いが、A町では居住年数が短い住人であっても町内会長を任せることがあるという。

B町(戸建て・長屋と共同住宅が混在する町内, Fig. 2)

人口は216人、150世帯(うち共同住宅が4棟・116世帯)であり、共同住宅の世帯の割合が高い。1棟の共同住宅(賃貸、世帯向け)の世帯は町内会に個別に加入している^{注4)}。2013年度の地蔵盆当日の参加者は約60人であった(参加率・約28%)。B町では地蔵盆だけでなく、「お千度参り」等の町内行事や自治連合会(元学区)の行事への参加も活発である。戸建て・長屋建て住宅と共同住宅が混在しており、一部ではあるが共同住宅の住人を取り込みながら町内会が活動している。一方で、町内会の担い手が不足しており、町内会の運営を現在担っている住人から今後の負担増加を懸念する声も聞かれた。町内会へのフリーライドの問題が今後顕在化することも予想される。

2.2 調査方法 (Table1)

2013年11月初旬にA町、B町に住む全世帯を対象として、各町の協力を得てアンケート調査を行った^{注5)}。A町からは20票、B町からは34票の有効な回答が得られた(有効回答率:A町約44.4%、B町約22.7%)。また、各町の事情に詳しい住人にヒアリング調査を行い、町内の概要や町内会、地蔵盆の運営の現状について把握した。

2.3 アンケートへの回答からみた住民の特徴 (Fig. 3)

年齢 A町の回答者のうち15名(75%)が60歳以上であり、高齢者が多い町内であることが窺える。B町は60歳以上が6名(約15.6%)であり、A町と比べ若い世代からの回答が多い。2010年度の国勢調

Table1 Outline of the questionnaire survey

表1 アンケート調査の概要

	A町 A-cho	B町 B-cho
基本的特徴 Basic Character	居住年数の長い住人が多く高齢化が進行。戸建て住宅・長屋が中心。Most residents are living in the community for long time and aging. Detached and row house are main house types.	町外から転入する若年世帯も多く、戸建て・長屋と共同住宅が混在。Some young households recently moved in to the community. Apartment houses and other house types are mixed.
人口・世帯数 Population	75人 75 persons 45世帯 45 households	216人 216 persons 150世帯 150 households
配布世帯数 No. of household for distribution	45世帯 45 Households (うち32世帯が町内会に加入 32 households join in Cho-nai-kai)	150世帯 150 Households (うち52世帯が町内会に加入 52 households join in Cho-nai-kai)
質問内容 Contents of Question	地蔵盆で参加する(した)行事、行事の運営への関わり方、参加の目的、参加のきっかけ、地蔵盆以外の地域への関わり方等 Events you joined in Jizo-Bon, Your involvement for management of events, Purpose of participation, Reason of participation, Your involvement in region activities except for Jizo-Bon etc.	
配布方法 Way of distribution	町内会加入世帯: 町内会を通じて配布 Households joining in Cho-nai-kai: Distribution through Cho-nai-kai 町内会非加入世帯: ポスティング Households not joining in Cho-nai-kai: Distribution with posting	
回収方法 Way of collection	郵送、または町内会長を通じて回収 With mailing or cho-nai-kai	郵送にて回収 With Mailing
回収数(有効回答率) No. of Collection (Effective Response ratio)	20世帯 20 Households (44.4%)	34世帯 34 Households (22.7%)
配布日 Date of distribution	2013年11月10日 10th November 2013	
回収締切日 Deadline of reply	2013年12月8日 8th December 2013	

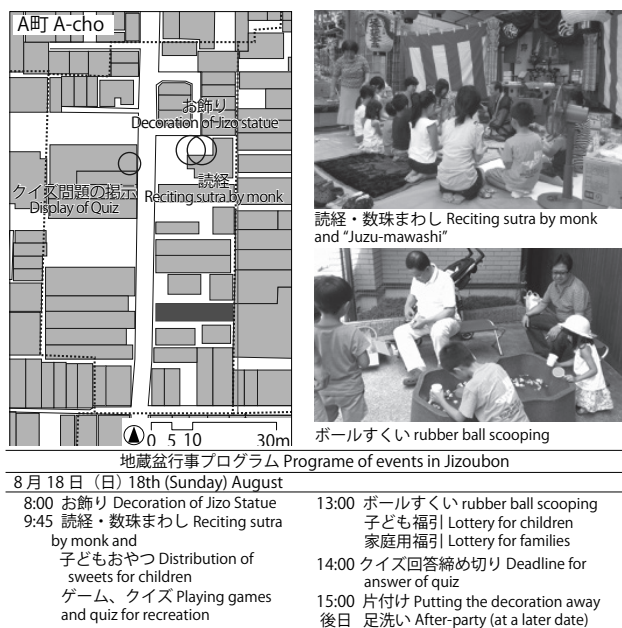


Fig.1 Spacial character and Jizoubon program in A-cho
図1 A町の空間構成と地蔵盆の様子

査によると、両町の20歳以上人口に占める60歳以上人口の割合は、A町が約52.4%、B町が約19.0%となっており、アンケート回答者の年齢構成は町内の状況を概ね反映したものとなっている。

居住年数 A町の回答者14名(全体の70%)が居住年数31年以上であり、居住年数が比較的長い者が多い。一方で、居住年数10年以下の年数が比較的短い者も5名(25%)いる。B町は、居住年数31年以上の回答者は6名(約17.6%)に留まり、半数以上は居住年数10年以下である。B町は居住者の入れ替わりが比較的多いことが窺える。

同居家族 A町の回答者のうち12世帯(60%)が「夫婦のみ」である。回答者の年齢を踏まえると、子育てを終えた夫婦の世帯が多いと推測される。また、2世帯(15%)は「3世代同居」である。B町の回答者のうち12世帯(約35%)が「単身世帯」であり、ワンルーム居住世帯が多い人口の特徴を反映している。「夫婦のみ」は4世帯(11.8%)であった。一方、14世帯(約41.2%)には未婚の子どもがいて、そのうち13世帯(約38.2%)には中学生以下の子どもがいる。

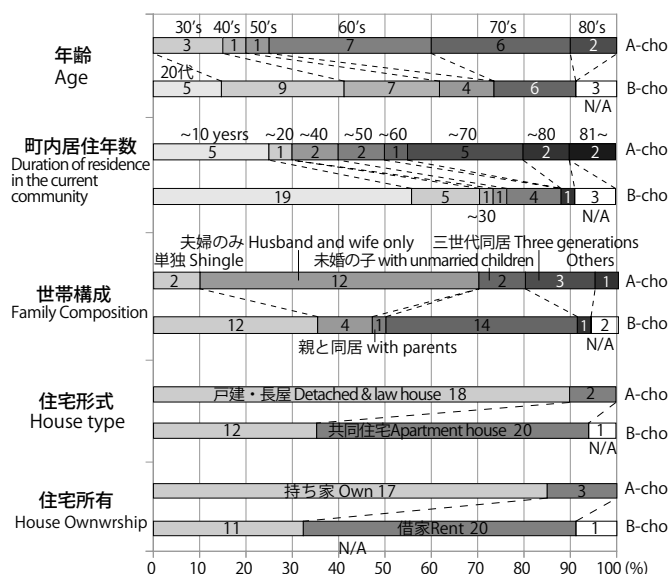


Fig.3 Basic Characteristics of respondents(persons)
図3 回答者の基本属性 (A町: N=20, B町: N=34) (人)

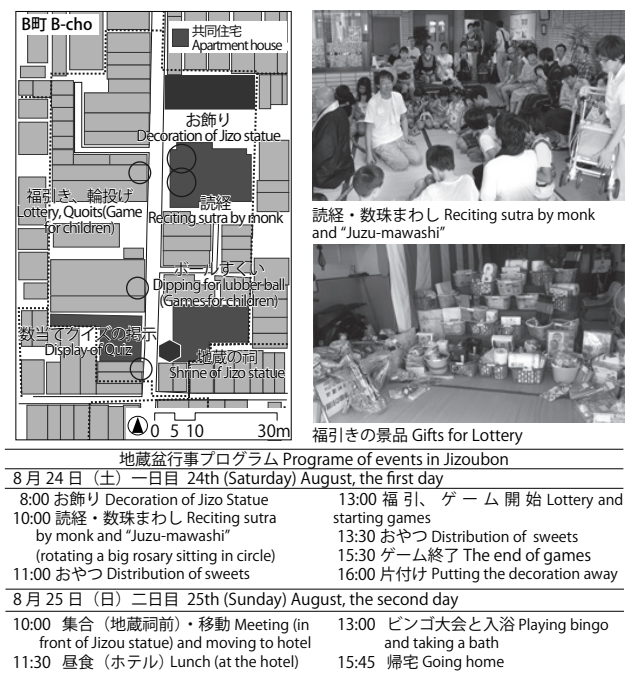


Fig.2 Spacial character and Jizoubon program in B-cho
図2 B町の空間構成と地蔵盆の様子

住宅形式 A町の回答者のうち17名(85%)が戸建て(または長屋)の持ち家、1名(5%)が戸建ての借家、2名(10%)が共同住宅の借家に居住している。B町の回答者のうち11名(約32.4%)が戸建ての持ち家、19名(約55.9%)が共同住宅の借家に居住している。いずれの町内にも共同住宅の持ち家はいなかった。

3 地蔵盆運営への関与と町内における関係の冗長性

3.1 各町住民の町内・地蔵盆への関与の実態

A町 地域運営への関わり方(Fig.4)のうち、町内会については、回答者20名のうち14名が町内会の役員(会長・副会長・会計のいずれか)を担ったことがある。元学区の活動に関しても運営に関与している者が一定数いる。先述したようにA町には長年にわたって町内に居住している者が多い。彼らは町内や元学区の運営にも関心が高く、地域との関わりも豊富であると推測される。

地蔵盆への参加(Fig.5)については、回答者20名のうち10名が「毎年参加」、6名が「都合がつけば参加」しており、参加に積極的な住人が多い。一方、町内に地蔵盆という行事があることを知らなかったと回答した住人も2名おり、彼らはワンルームマンションの世帯であった。「ワンルームの住人とは関わりがない」というヒアリング結果からもわかるように、共同住宅世帯と地域の関わりが希薄さが窺える。また、A町では、「お火焚き」などの他の町内行事や「夏祭」、「運動会」、「防災訓練」等の元学区の行事への参加も地蔵盆と同様に積極的であり、住人の地域との関わりが豊富であることが窺える。

2013年度の地蔵盆における個々の行事への参加状況(Fig.6)をみると、何らかの形で地蔵盆に参加した住人は20名中16名であった。「卵つかみ」(くじを引いて、そこに記載された数だけ生卵を持ち帰るゲーム)や「家庭用福引」には、ほぼ全世帯が参加している。地蔵盆のメインの行事である「読経/数珠回し」も参加者が比較的多い(12名)。「お飾り」や「片付け」への参加は半数(各8名)に留まっており、世話役が中心となって役割を担っていると推察される。

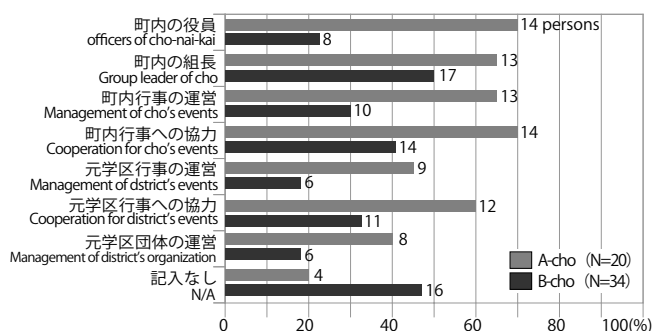


Fig.4 Involvement for area management (multiple answer)
図4 地域運営への関わり方 (複数回答)

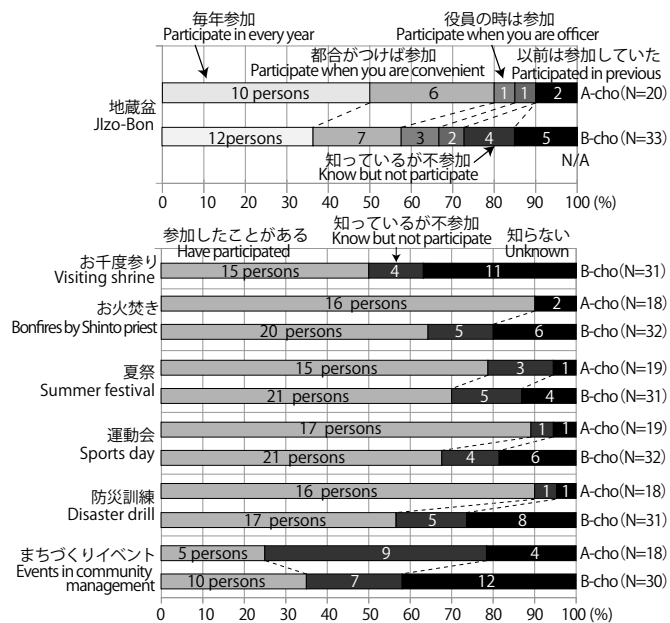
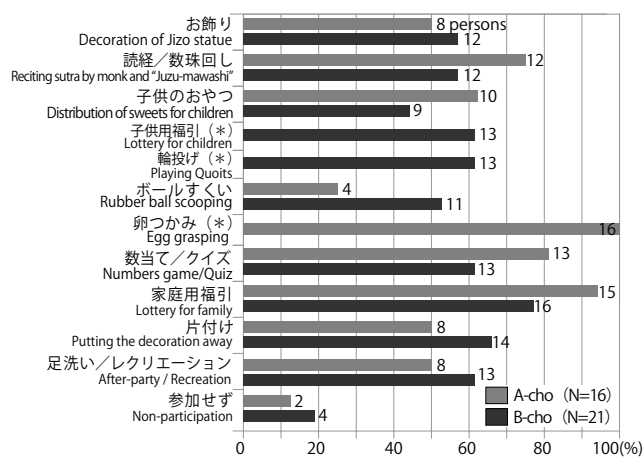


Fig.5 Participation for Jizoubon and community events
図5 地蔵盆および地域行事への参加状況

地蔵盆の運営への関わり方 (Fig. 7) をみると、いずれの項目も、地蔵盆に参加したことがある回答者 18 名の概ね 8 割が地蔵盆の運営を担ったことがある。「会場の提供」については個々の住宅事情もあり他の関わり方よりも少ない。ただ、それでも半数以上の世帯が自宅の一部やガレージ等を地蔵盆の会場として提供したことがある。

B 町 地域運営への関わり方 (Fig. 4) をみると、回答者 34 名のうち 8 名が町内会の役員を担ったことがあり、いずれも戸建て住宅の世帯であった。また、町内会の組長を担ったことがある 17 名のうち 7 名は共同住宅世帯であった。これは、ヒアリングで得られた「町内会の役員を担う人に偏りがあり、一部の住人の負担が大きい」という発言とも一致する。元学区の活動への関与は A 町と比較すると少なく、「記入なし」も 16 名と多い。B 町の住人には町内や元学区の運営に関心を示さない者も多く、彼らの地域との関わりは希薄である。ただし、共同住宅の世帯が組長を担うことは、町内会運営を将来において担うきっかけになると捉えることもできる。

地蔵盆への参加 (Fig. 5) については、回答者 33 名のうち 12 名が「毎年参加」しており、7 名が「都合がつけば参加」している。一方で、「知っているが参加したことがない」が 4 名、「町内に地蔵盆があることを知らない」が 5 名おり、地蔵盆に関わりがない住人も一定数いる。これらの世帯のうち 7 名は共同住宅の単身世帯 (ワンルームマンションの住人) であるが、他の 2 名は子供のいる世帯であり、



(*) どちらか一方の町で開催された行事 Events held in only one of A-cho or B-cho
Fig.6 Events in Jizoubon you participated (multiple answer)
図6 参加した地蔵盆行事 (複数回答)

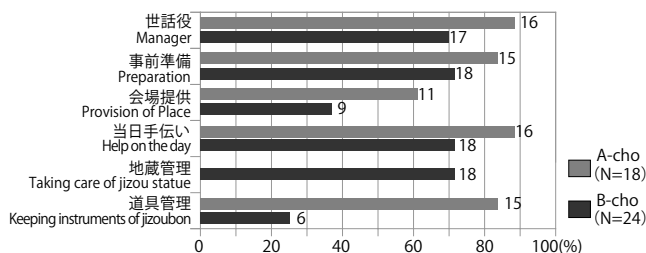


Fig.7 Roles you experienced in Jizoubon (multiple answer)
図7 地蔵盆運営で担ったことがある役割 (複数回答)

彼らは地蔵盆を含め地域との関わりがない^{注6)}。また、町内の行事である「お火焚き」や「お千度参り」の参加率は地蔵盆よりやや低い。「お千度参り」については認知度も低く、町内行事としての地蔵盆の重要性は相対的に高い。元学区の行事については、「夏祭り」や「運動会」といった行事の参加率は高いが、運営を担っている者は少ない。2013 年度の地蔵盆における個々の行事への参加状況 (Fig. 6) をみると、A 町と同様に「家庭用福引」の参加率が最も高い (21 名中 16 名参加)。その他の行事についても概ね半数以上の世帯が参加している。また、「お飾り」や「片付け」についても参加していると答えた世帯が多い。少なくとも地蔵盆の当日においては町内の住人の参加、運営への協力・連携が図られていることがわかる。

地蔵盆の運営への関わり方 (Fig. 7) をみると、A 町に比べると関わりのある世帯の割合が低い、地蔵盆に参加したことがあると答えた 24 名のうち世話役を担ったことがあるのは 16 名、事前の準備に関わったことがあるのは 17 名、当日の手伝いは 17 名と、一定の関与がみられる。さらに「地蔵の日常的な管理やお世話を行ったことがある」も 17 名みられ、地蔵盆の当日だけでなく地蔵の管理を通じて町内と関わりを持っていることが確認された。回答者 24 名のうち 20 名が何らかの形で地蔵盆の運営に関わっており、町内会や元学区の運営への関与が低調であったのと比べて、地蔵盆については住人が運営に関与しやすくなる何らかの性質があると推測される。

3.2 地蔵盆運営と関与の冗長化

前稿¹⁾において住人の町内への関わりを、「町内会運営への関わり」と「地蔵盆への関わり」から捉えた。本稿においても、地蔵盆に参加している (あるいは以前は参加していた) という回答者について、年齢、居住年数等の基本属性、町内会運営への関わり、地蔵盆への関わりといった項目をまとめ (Table2)、各回答者が前稿¹⁾で示した

Table2 Involvement of each respondents to management

表2 回答者ごとの地域・地蔵盆運営への関わり方

回答者番号 Mark of respondents	回答者の属性 Character of respondents				町内会運営 Management of Cho-nai-kai								地蔵盆運営 Management of Jizo-Bon							
	性別 (性)	年齢 (歳)	居住年数 (年)	世帯タイプ House type	家族構成 Family type	町内会への関わり Involvement to Cho-nai-kai	役員 Officer (3 roles)	役員 Group leader	役員 Arrangement of events	役員 Preparation	役員 Manager	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place	役員 Provision of Place
A01	85	85	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A02	77	77	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A03	75	75	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A04	65	65	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A05	72	63	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A06	61	61	A	IV	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A07	71	50	A	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A08	60	10	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A09	68	3	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A10	83	83	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A11	71	63	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A12	32	2	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A13	62	31	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A14	47	47	A	IV	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A15	59	35	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A16	66	66	A	V	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A17	64	4	A	I	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A18	71	46	A	IV	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
A19	36	3	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
A20	32	2	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B01	70	43	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B02	72	42	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B03	47	6	A	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B04	78	78	A	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B05	57	12	A	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B06	76	49	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B07	54	30	A	II	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B08			A	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B09	27	27	A	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B10	41	10	B	V	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B11	52	7	B	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B12	52	0	B	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B13	43	5	B	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B14	77	3	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B15	78	13	A	I	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B16	40	13	A	I	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B17	36	5	B	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B18	38	1	B	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B19	45	45	A	I	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B20	39	8	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B21	42	9	B	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B22	30	1	B	III	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B23	30	1	B	III	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B24	31	2	B	III	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B25	31	12	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B26	38	7	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B27	25	1	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B28	28	0	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B29	23	3	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
B30	22	0	B	I	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

町内への関わり方のどのタイプに該当するかを示した注7。

また、各回答者の町内会運営と地蔵盆への関わり方について前稿¹⁾で検討したタイプ分けを用いて分析した (Fig. 8) 注8)。ここから、町内会運営を担わない世帯 (○の世帯) が、地蔵盆の企画・運営には関わっているという場合が存在することが確認できる (Fig. 8 のグレーの網掛けで示したパタンの住人: A 町3人、B 町9人)。さらに、町内会に個別加入していないが、地蔵盆を通して町内に関わりを持っている回答者がB 町で1名いることも確認された。このように、町内会との関わりがない住人が地蔵盆を通して町内と関わりを持っている場合があることが確認された。

3.3 地域との関わりを持ちづらい人々の関与

新規居住者 居住年数が短く町内にまだあまり馴染んでいない住人が、地蔵盆の行事の準備や運営を担う場合がある。例えば、B10、B13、B15、B17 は居住年数が5～15年の共同住宅世帯であり、中学生以下の子どもがいる。町内会の組長を担ったことはあるが、地域運営を担うには至っていない。一方で、地蔵盆の準備や当日の手伝い等は行っている。アンケートの自由記述には、「東京から来たので地蔵盆を知らず、最初は怪しい宗教儀式かと思いました。」(B13) や、「市内の別の区からこちらに移って来ました。昔ながらの習わしが多くて驚いています。」(B12) といった記述が見られ、最初は戸惑いもあったが徐々に関わりを得て町内に溶け込んでいく様子が窺える。

また、町内に移り住んで間もない者が行事に参加することは、町内の運営を担う住人と知り合う機会でもある。同じ町内にいることをお互いに知ること、町内行事への参加の呼びかけや様々な助け合いができる関係が形成されると考えられる。例えば、B18 は、居住年数1年の共同住宅世帯であり、現状では地蔵盆の運営への関わりはなく、行事への参加のみである。しかし、「引っ越してきて初めて知った地域の行事が多く、子どもも幼いので、ご近所と親睦が深まりありがたく思っている」、「地蔵盆の手伝いを行いたい」と記しており、地蔵盆を肯定的に捉え積極的に参加する姿勢が窺える。また、B20 は居住年数1年であり、2013年度地蔵盆の参加行事は「子供のおやつ配布」のみではあるが、地蔵盆の会場に顔を出すことで町内の人々に認知されている。

町内会への関わり Involvement to Cho-nai-kai		地蔵盆への関わり Involvement to Jizo-Bon		町内会の運営を担う住人 (◎)		町内会の運営を担わない住人 (○)		町内会に加入していない住人 (△)	
参加 Participation	不参加 No participation	両方向 Mutual	片方向 Unilateral	両方向 Mutual	片方向 Unilateral	両方向 Mutual	片方向 Unilateral	両方向 Mutual	片方向 Unilateral
No participation on the day	No participation on the day	両方向 Mutual	関わりなし No involvement	—					 △
			A-cho : 2 persons B-cho : 9 persons						
			参加の呼びかけを受けたが、当日の参加なし No participation in spite of call for participation	 ◎	 ○	 △			
			A-cho : 0 persons B-cho : 0 persons	A-cho : 0 persons B-cho : 1 persons	A-cho : 0 persons B-cho : 0 persons				
Participation on the day	Participation on the day	両方向 Mutual	運営への協力があり、当日の参加なし No participation in spite of cooperation in preparation	 ◎	 ○	 △			
			A-cho : 0 persons B-cho : 1 persons	A-cho : 1 persons B-cho : 1 persons	A-cho : 0 persons B-cho : 1 persons				
			関わりなし No involvement	—					 △
			A-cho : 0 persons B-cho : 0 persons						
No participation on the day	No participation on the day	片方向 Unilateral	運営への協力がなく、当日の参加あり Participation in spite of no cooperation in preparation	 ◎	 ○	 △			
			A-cho : 0 persons B-cho : 0 persons	A-cho : 1 persons B-cho : 3 persons	A-cho : 0 persons B-cho : 0 persons				
			運営に協力があり、当日の参加あり Participation with cooperation in preparation	 ◎	 ○	 △			
			A-cho : 8 persons B-cho : 13 persons	A-cho : 2 persons B-cho : 8 persons	A-cho : 0 persons B-cho : 0 persons				

<凡例> ◎ ある年度の町内会役員 → 何らかのサービス ○ 地蔵盆への参加

単身者 地蔵盆には子どもの安全を祈るという趣旨があることから、特に低年齢の子どもがいる世帯が積極的に地蔵盆に関与していると予想された。しかし、調査結果からは、4名と少数ではあるが、単身世帯の関わりも確認され、個々の状況に応じた多様な関わりが見られた。例えば、A17は、「卵つかみ」と「家庭用福引」に参加している。町内会の運営は担っていないが、「地蔵盆の世話役」や「当日の手伝い」を行った経験はあり、地蔵盆を通じて地域と関わっている。また、B14は、共同住宅で暮らす単身高齢者であり、ともすると地域との関わりが希薄になりがちであるが、「お飾り」や「家庭用福引」に参加している。町内会の組長を担ったことがあるが、現在は町内会や地蔵盆の運営への関わりは限定的である。ただ、「地蔵の日常的な管理」を担っており、地蔵の祠の掃除やお供えの交換などを通じて地域と関わっている。B15も単身の高齢者であり、「世話役になった年度の地蔵盆には参加している」と答えている。「お千度参り」や「お火焚き」は「知っているが参加したことはない」と答えており、地蔵盆が町内に顔を出す数少ない機会であることが窺える。B19は、共同住宅で暮らす若い単身者であり、一般的には町内との関わりが少ない層である。都合により本年度は参加しなかったが、地蔵盆へは「仕事などの都合がない限り参加している」と答えており、「当日のお飾りや片づけを行ったことがある」とも答えている。

その他、地域との関わりが希薄な者 何らかの理由により町内会運営を担うことが困難である住人にとって、地蔵盆が地域との関わりを持つための貴重な機会となっている。A15やA16は、町内の居住年数が長い、町内会の役員を担ったことがなく、町内との関わりが希薄である。しかし、そういった住人も、地蔵盆の運営に関しては一定の役割を担っている。このように、町内会運営という視点では町内と関わりがないが、地蔵盆の運営を通して町内と関わりを持っている住人は存在する。

4 地蔵盆によって町内への関与が冗長となる要因の分析

4.1 行事要素の意味づけ

Fig. 9は、地蔵盆において住人が重要であるとする行事、および2013年度の地蔵盆で実際に参加した行事を示す。

住人が「重要である」と感じており、かつ「参加」が多い行事は、A町では、「数珠回し」、「家庭用福引」、B町では、「お飾り・片付け」、「子どもの遊び」であった。一方、「重要ではない」と感じているが参加が多い行事もあり、A町では、「子ども用福引／おやつ配布」、「ゲーム、クイズ」、B町では、「家庭用福引／卵つかみ」、「足洗い／レクリエーション」が該当する。「家庭用福引」や数当て等の「ゲーム」は、住人が気軽に楽しみながら参加できる行事である。運営者は事前に参加者を確認し、欠席者には後日、自宅まで景品を届けに行く。こういった丁寧な対応が高い参加率に繋がっているとも考えられる。このように、住人が気軽に楽しめる行事も、地蔵盆への参加を促し、運営を担うことの意味を見出す上で意義があると考えられる。

Fig. 10は住人が最も重要だと感じる行事を示す。A町では、「お飾り・片付け」や「数珠回し」という宗教的な意味合いがある行事を挙げた者が15名と多数を占めている。居住年数の長い住人が多いA町では地蔵盆本来の意義を認識している者が多いと推測される。一方、B町では、「お飾り・片付け」や「数珠回し」が多数であることはA町と同じであるが、他にも「おやつ配布」、「福引」や「レクリエーション」

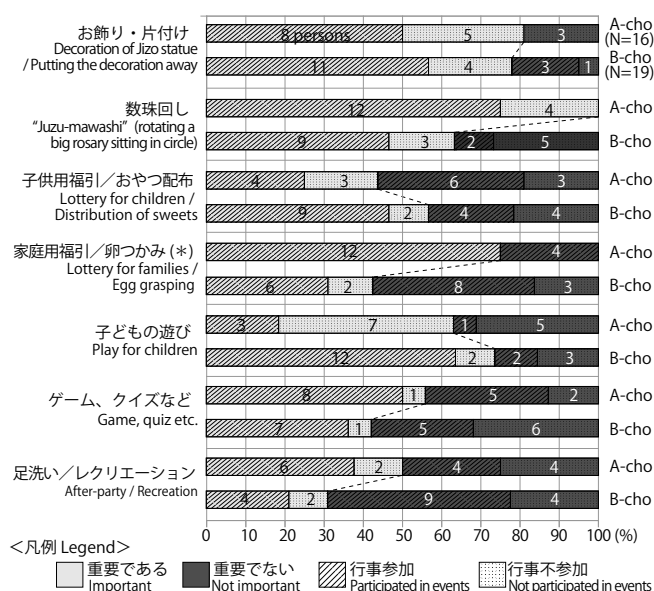


Fig.9 Important events in which you joined (multiple answer)
図9 重要と考える行事、実際に参加する行事（複数回答）

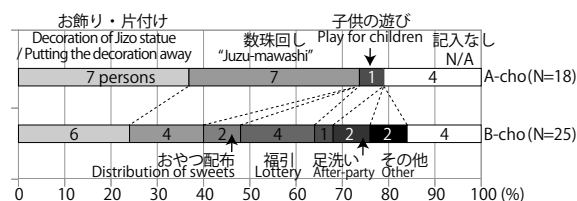


Fig.10 The most important events (single answer)
図10 最も重要だと思う地蔵盆行事（単数回答）

ョン」を挙げている者もいる。B町には、低年齢の子どもがいる世帯や町内での居住年数が短い世帯が多い。これらの住人を中心に、地蔵盆について宗教行事よりも住民間の親睦や楽しみとしての意味合いをより強く感じている住人が一定数いることが窺える。

4.2 地蔵盆に関与する理由

Fig. 11は地蔵盆に参加する理由を示す。A町では、「地蔵を祀る」、「先祖供養」、「町内親睦」、「役員としての務め」、「子供のため」という回答がそれぞれ11～13名ほど見られ、最も多かったのは「町内の伝統行事であるから」であった（15名）。また、Fig. 12に示した地蔵盆に参加する最大の理由も、「町内の伝統行事であるから」が最も多かった。一方で、その他の理由に関してもそれぞれ、最も大きな理由として答えた者がいる。このことから、地蔵盆に関わりを持つ理由は人それぞれであることが窺える。一方、地蔵盆は子どものための行事であるという意識も薄れていない（12名）。町内に住む子どもは少なくなったが、外孫の参加によって意識が保たれているとも考えられる。また、「町内会の役員としての役割を果たすため」という回答もみられた（13名）。町内会長は地蔵盆の世話役を兼ねており、一年交代の持ち回りである。地域に住んでいる以上、地蔵盆の運営を担うのは義務であると捉えられていると考えられる。

B町において参加の理由は、「町内の親睦」が一番多く、「地蔵を祀る」、「子供のため」、「伝統行事であるから」がこれに続く。「景品がもらえる」ことを理由に挙げている回答者もあり、「先祖供養」と答えた回答者は3名とA町と比べ少ない。「景品がもらえるから」と答えた者の中には、その他の理由として「町内の親睦」だけを答えた回答者もいる。そういった住人にとっては、宗教行事としての意義

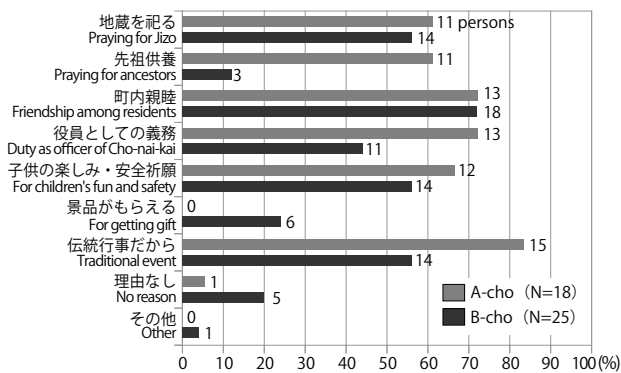


Fig.11 Reasons for participating in Jizoubon (multiple answer)
図 11 地蔵盆に参加する理由 (複数回答)

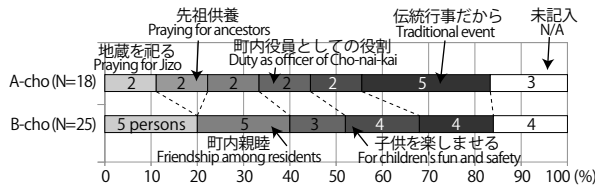


Fig.12 The most important reason for participation (single answer)
図 12 地蔵盆に参加する最大の理由 (単数回答)

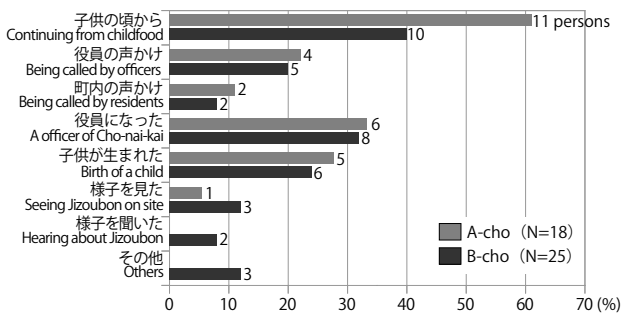


Fig.13 A start for participating in Jizoubon (multiple answer)
図 13 地蔵盆に関わったきっかけ (複数回答)

や伝統行事としての位置づけはなく、純粋に親睦のための行事として地蔵盆が捉えられていると考えられる。

4.3 地蔵盆に関与するきっかけ

地蔵盆に関与したきっかけ (Fig. 13) をみると、A町では「子供の頃から参加している」という回答が最も多かった。加えて、居住年数が10年以下の住人(3名)は全て、「役員になったことをきっかけに」と答えている。ヒアリングでも「転入してきた人には、町内会への加入を薦める。町内会の規約では、転入してきた次の年度から町内会長を担う可能性がある。住民が高齢化する中、転入してきた若い人に町内会の運営を助けてもらっている」という発言が得られているように、町内会への加入後、町内会の役員、あるいは地蔵盆の世話役といった段階を経て町内会への関与が深まっていく様子が窺える。

B町においてもA町と同様に、「子供の頃から参加している」という回答が最も多く、次に「役員になったことをきっかけに」という回答が多い。また、「地蔵盆の様子を見て興味を持った」と答えた者もいる(3名)。これは、前稿¹⁾でもみたように、地蔵盆は町内の駐車場や町家のミセの間、共同住宅の玄関ロビー等、人目につきやすいオープンな場所で開催されることが多いことに起因していると考えられる。また、B町に最近転入してきた住人からは、(別の町内で)「子供の頃から参加している」という答えや、「地蔵盆について聞いたことがあり興味があった」という回答もあった。このことから、地蔵

盆が市内の広範囲で行われており、住人にとって身近な存在であることも運営に関わりやすい要因であると考えられる。

5 結論

fig. 14 に、本稿で明らかとなった住人の地域運営(町内・元学区)への関与とその背景(典型的な住人の特徴、関与の動機)を整理した。まず、町内における個々の住人の関わりについて分析した結果、町内会の運営に関わりがない、あるいは限定的な関わりしかない住人が地蔵盆の運営には関わっていることがあることが明らかになった(fig. 14のType II, III)。このことから地蔵盆は、住民にとって町内会運営以外の経路で地域運営に関わる契機であり、町内の住民間の関係性に「冗長性」をもたらしていると言える。地蔵盆の運営では、「世話役」や「事前準備」といった負担が比較的大きい役割だけでなく、「会場提供」や「当日の手伝い」などの細かな役割も発生している。そのことにより住人はそれぞれが可能な範囲で役割を担うことができ、結果として全体的な負担の分散に繋がっていると考えられる。

また、町内会に加入していない住人や新規住人、単身高齢者、共同住宅居住者といった、町内との関わりを持ちにくい住人の中にも地蔵盆に参加している者がいることが明らかになった。このことから地蔵盆が町内に関わる人々の「多様性」の獲得に寄与していることが確認された。地蔵盆の運営を担っている住人が今後、町内会の運営も担うことが期待される場合もあると考えられる。ただ、本稿でみた限り、前者の関わり方は後者のそれと別物であり、そのことが地域自治に関わる余裕を持たない住人がそれぞれが可能な範囲で負担を負い、町内に関与することを可能にしていると考えられる。

次に、地蔵盆によって「冗長性」が獲得される要因について、地蔵盆に対する住人の認識をもとに分析した。その結果、地蔵盆における行事の意味づけ、参加の動機、関わったきっかけは概して言う人それぞれであり、住人それぞれの認識のもと参加の判断が可能であるという地蔵盆の性質が明らかになった。一方、調査対象のうち、居住年数が比較的大きい住人が多いA町では地蔵盆は「宗教行事」や「伝統行事」としての意味合いが強いのにに対して、新規住人の流入が多いB町の住人では地蔵盆は「町内の親睦」や「楽しみ」、「子どものため」のためという意味合いが強い。このことから、町内の人口構成などの特徴を反映して、意味づけを変更・追加しながら存続して

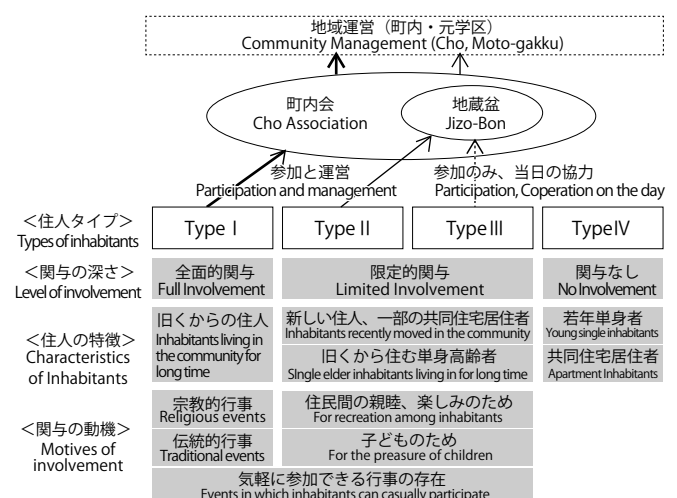


Fig.14 Summary of residents' involvement to community management
図 14 住人の地域運営への関与のまとめ

いるという地蔵盆の性質が確認された。また、「気軽に参加できる行事の存在」は地域の特徴に関わらず認識されている地蔵盆の性質であることもわかった。地蔵盆は市内で広くみられる行事であることから、市内で引っ越した住人にとっては地蔵盆が地域に馴染む契機となっているという発言も得られた。以上を踏まえると、本稿では十分に明らかにできていないが、このような地蔵盆に対する共通のイメージというものも、地蔵盆に多くの住人が参加し、共同で運営することを可能にしている重要な要素であると考えられる。

以上のように、地蔵盆は町内における関係の「冗長性」の獲得に寄与しており、それは地蔵盆が備える、①個々の住人が可能な範囲で運営を担えるよう役割が分散されていること、②住民それぞれの認識や動機のもとで関わることができること、といった性質に由来することが明らかになった。また、地蔵盆が市内に広く分布する行事であり人々の中に共通のイメージが形成されていることも多様な人々の参加や共同の運営を可能にしている要因であると考えられる。

地域自治への関心の低下や担い手の不足が問題視されるなかで、地蔵盆はそれぞれの事情や関心に応じて住人が地域へ関わるきっかけを与えてくれる貴重な資源である。一方で、本稿で明らかにしたような地蔵盆の性質は長い年月を経て獲得された独自のものであるため、一度失われると回復が困難である。地蔵盆の存続に向けては、共働きの増加といった生活様式の変化に応じた地蔵盆の意義や運営方法の見直しが課題である。なお、異なる生活様式、価値観の混在に伴う地域自治をめぐる社会的葛藤（協調問題、フリーライド問題など）は、少なくとも京都の街中に広くみられる問題である。本稿で明らかにした地蔵盆の地域まちづくりの資源としての性質や課題は少なくとも京都の街中においては一般性を有すると考えられる。

謝辞

アンケート調査に際しては有隣学区まちづくり委員会、町内会、住民の方々にご協力頂いた。また、調査の実施および調査結果の分析にあたって西野克裕氏（京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程／当時）の協力を得た。ここに記して謝意を表す。

注

注 1) レジリエンス (resilience) とは、「ある系が不確実な変化や危機に柔軟に対応しながら、自らの基本的な特徴を維持する能力」を指し、柳の木の枝が持つような「しなやかな強さ」にしばしば例えられる。レジリエンスの必要性は様々な分野で議論されており、本研究は地域まちづくりにおける「レジリエントなコミュニティ形成」の資源として地蔵盆の意義を捉えることを試みる。

注 2) 地蔵盆は、毎年 8 月 24 日を中心として地域の人々が地蔵を祀り、家族や地域の安全を祈願する行事である。江戸時代の初期に成立したと言われ、京都の街なかでは、町内（両側町）を単位として住民（町内会）によって実施されている。京都市の調査（2013 年）によると市内の町内会の約 8 割で地蔵盆が実施されている。近年は町内会加入者の減少や少子化に伴う地蔵盆の廃止・簡略化も指摘されており、担い手の不足から地蔵盆の存続を危惧する声もある。

注 3) 「協調問題」とは、ある集団において他の人々が同じように参加する限りにおいて自分も集団の行動に参加したいと思う状況を指す。また、「フリーライド問題」とは、コミュニティの一部の人々が義務や責任を果たさずに利益だけを享受しようとする状況を指す。本研究は、上述のように、町内という小規模な集団における適正な管理にむけた人々の交流のあり方を問題としている。

注 4) 共同住宅の居住者は一棟単位で町内会に一括で加入している場合が多く、その場合、個々の居住者には町内会に加入しているという意識が希薄である。B 町の該当する共同住宅では、希望する世帯はそれぞれ個別に町内会に加入している。なお、前年度（2012 年度）の B 町の地蔵盆では、参加者 31 人中、マ

ンション住人が 18 人であり、マンション住人の参加も多数確認できた。

注 5) 筆者らは以前から有隣学区のまちづくり活動に参加し、住民と関係を構築してきた。そのような経緯もあり、今回の調査に際しても各町の協力が得られた。調査票の配布・回収に際して、町内会加入者に対しては町内会の各組長を通して手渡しした。町内会に非加入の共同住宅等の世帯には各住戸の郵便受けに投函した。調査票の回収は、A 町に関しては郵送または町内会長宅の郵便受けへの投函により、B 町に関しては郵送のみによって行った。

注 6) アンケートの回収率から、町内会に加入していない共同住宅世帯の地域への関心の低さが窺える。地蔵盆を含め地域との関わりを一切持たない住人はアンケート調査の結果以上に多いということが推察される。

注 7) 判別の基準は Table. 2 の凡例の通りである。○の世帯の中には町内会の組長を担ったことがある住人も含まれるが、ここでは組長はあくまで、町内会の運営を担う三役（◎の世帯）と各世帯のパイプ役が主な役割であると判断し、◎の世帯とは区別することにした。

注 8) Fig.8 について詳細は、前稿¹⁾ 3-4. 「住民のコミュニティへの関わり方」を参照。なお、本稿の調査では本年度の町内会役員かどうかは判断できないため、●(ある年度の町内会役員) も人数上は◎としてカウントしている。

参考文献

- 1) Maeda, M., Takada, M., Morishige, S. and Nishino, K.: Actual Condition of Jizo-bon Management and Diversity of the Participants in the Central Area of Kyoto -A study on roles of Jizo-bon in the resilient formation of the local community -, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.714, pp.1833-1842, 2015.8 (in Japanese)
前田昌弘、高田光雄、森重幸子、西野克祐：京都市都心部における地蔵盆の運営実態と参加者の多様性 - レジリエントなコミュニティ形成に果たす地蔵盆の役割に関する研究 -, 日本建築学会計画系論文集, 第 80 巻, 第 714 号, pp.1833-1842, 2015.8
- 2) Putnam, R. D.: Bowling Alone -The Collapse and Revival of American Community, Kashiwa shobo, 2006 (in Japanese)
R.D. パットナム著、柴内康文訳：孤独なボウリング - 米国コミュニティの崩壊と再生, 柏書房, 2006
- 3) Yamada, H.: Considering Succession and Transformation of City Festival Culture -Social Capital and Cultural Capital, Minerva Shobo, 2016 (in Japanese)
山田浩之（編著）：都市祭礼文化の継承と変容を考える - ソーシャル・キャピタルと文化資本, ミネルヴァ書房, 2016
- 4) Suk-Young Chwe, M.: Rational Ritual -Culture, Coordination, and Common Knowledge, Princeton Univ Pr, 2001
M.S.-Y. チウエ著、安田雪訳：儀式は何の役に立つか - ゲーム理論のレッスン, 新曜社, 2003
- 5) Tano, N.: Ojizousan of Osaka, Hokushindo, 1994 (in Japanese)
田野登：大阪のお地蔵さん, 北辰堂, 1994
- 6) Hayashi, E.: Jizo-bon -Pattern of acceptance and development, Hatsushiba bunko, 1997 (in Japanese)
林英一：地蔵盆 - 受容と展開の様式, 初芝文庫, 1997
- 7) Murakami, N.: History of Jizou-bon of Kyoto, Hozokan, 2017 (in Japanese)
村上紀夫：京都地蔵盆の歴史, 法蔵館, 2017
- 8) Noguchi, M.: The spaces presenting Jizo-bon in Nishijin, Kyoto, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, No.53, pp.1087-1088, 1978 (in Japanese)
野口美智子：京都西陣における地蔵盆の演出空間, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 計画系, pp. 1087-1088, 1978
- 9) Nishimura, S., Murosaki, I., Mori, Y.: A Study on Community Space Development by Children's Activities of Zizoh-Bon Annual Festival in Fushimi Town, Kyoto, Summaries of Technical Papers of Annual Meeting, Architectural Institute of Japan, pp.333-334, 1986 (in Japanese)
西村信治、室崎生子、森靖夫：地蔵盆を通してみた地域の子供の発達保障の空間づくり, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F 分冊, pp. 333-334, 1986
- 10) Takeuchi, Y., Funo, S.: Considerations on the Distribution of Zizou in Kyoto, Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No.520, pp.263-270, 1999.6 (in Japanese)
竹内泰、布野修司：京都における地蔵の配置に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 520 号, pp. 263-270, 1999.6

REDUNDANCY OF RELATIONSHIPS AMONG INHABITANTS OF “CHO” COMMUNITY IN TERMS OF INVOLVEMENT TO JIZO-BON MANAGEMENT

– A study on roles of Jizo-Bon in the resilient formation of the local community Part 2 –

Masahiro MAEDA ^{*1} and *Mitsuo TAKADA* ^{*2}

^{*1} Lect., Graduate School of Engineering, Kyoto University, Dr.Eng.

^{*2} Prof., Kyoto Arts and Crafts University, Dr.Eng.

This paper analyzed how Jizo-Bon, small-scale religious festivals held widely in Kyoto, contributes for improving resilience of “cho”, the basic communities in the central urban area of Kyoto. We clarified that inhabitants who has no involvement or quite limited involvement to “cho-nai-kai”, community management associations are joining management of Jizo-Bon. The result means Jizo-Bon is an opportunity for inhabitants to be involved in “cho” except for “cho-nai-kai”. In addition, it means Jizo-Bon provide “cho” with “redundancy”, another key factor of resilient communities in addition to “diversity”. We also clarified that it is caused with characteristics of Jizo-Bon described as follows.

1. Distribution of management loads to various inhabitants

Loads for management of Jizo-Bon are distributed to the extent that each inhabitant can bear them. For example, people can join in the management only with "arranging place", "supporting events on the day" which is easier to bear than other roles as "manager of Jizoubon", "preparing for events" etc.

It is also clarified that inhabitants who are usually difficult to be involved in communities as those who are not belong to "cho-nai-kai", those who moved in "cho" recently, single old inhabitants and apartment inhabitants participate in Jizo-Bon. It means Jizo-Bon contribute to "Diversity" of "cho".

It is expected that the people involved in Jizo-Bon management to make roles also in "cho-nai-kai" in the future. However, the people differentiate the former involvement from the later as far as we analyzed in this paper. That make it possible the people who cannot bear much loads of "cho-nai-kai" management to be involved in "cho".

2. Flexible meaning corresponded with community situation

Meaning of Jizo-Bon is flexible corresponding with situation of communities and people can join in it with their own purpose or motivation. The recognition about Jizo-Bon is different in the two "cho" communities selected as survey area in this paper. Inhabitants in "A cho", a community managed mainly by people who are living there for long term, recognize Jizo-Bon as "religious events" and "traditional events". On the other hand, inhabitants in "B cho", a community including people who moved in "cho" recently, don't recognize as "A cho" and accept it as rather for "communication among inhabitants" and "fun of inhabitants". It means that Jizo-Bon is sustaining by adding or changing meaning of itself corresponding with characters of community as its population structure.

In addition, we also clarified that Jizo-Bon is an opportunity for people who moved inside the city to become familiar with their new community because Jizo-Bon is held widely in the urban area of Kyoto. The image of Jizo-Bon shared among citizens seems to be a key factor making it possible for various inhabitant to join and collaboratory manage it.

Jizo-Bon is a resource which provide various inhabitants with opportunity to involve in communities depending on their situation and interest. It is precious especially in the context in which decrease of interest and lack of manpower for community management is serious problem. On the other hand, once Jizo-Bon is lost, it is difficult to restore because the characteristics of Jizo-Bon we clarified in this paper is acquired through long-term experience. It is necessary to advocate and measure for conserving Jizo-Bon for the future.

(2018年5月7日原稿受理, 2018年10月26日採用決定)